エムガルティ® 皮下注 120mg
オートインジェクター

医薬品リスク管理計画
(RMP)

本資材はRMPの一環として位置付けられた資材です

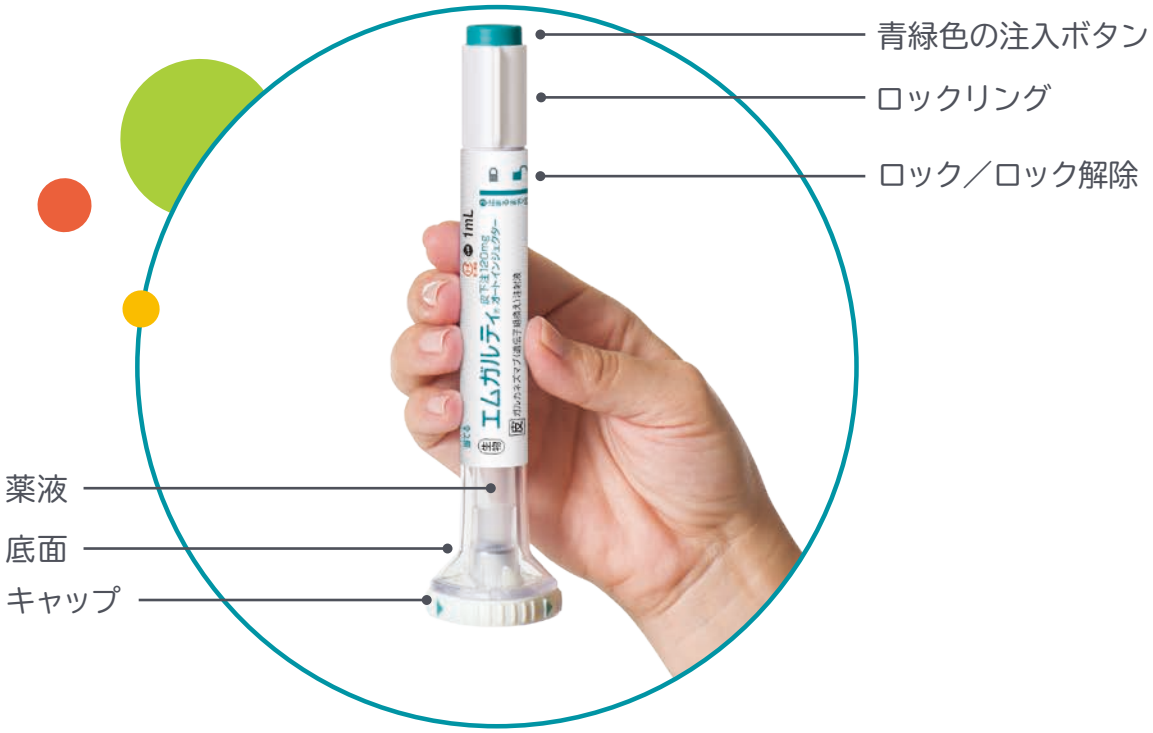
エムガルティを使用される患者さんへ

エムガルティ皮下注120mg オートインジェクターを
使用されている方へ

Lilly A MEDICINE COMPANY 日本イーライリリー株式会社

Daiichi-Sankyo 第一三共株式会社

エムガルティ皮下注120mg オートインジェクターは、1回使い切りの注射剤です。



初回に2本を、以降は1ヵ月間隔で1本を皮下に注射します。

初回
2本注射

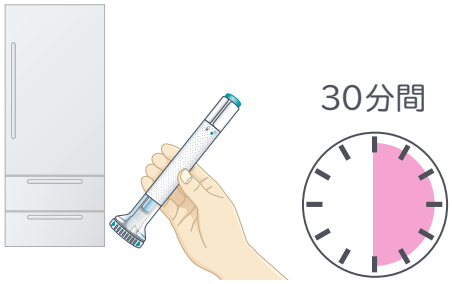
2回目以降
1ヵ月間隔で1本注射

- 本剤を激しく振らないでください。
- また、本剤を電子レンジで温めたり、お湯をかけたり、直射日光の当たるところに放置しないでください。

注射前準備

1. 冷蔵庫から取り出し、室温に30分間置きます。

＊使用前に30分間室温に置いておくことで、注射の不快感が軽減できます。

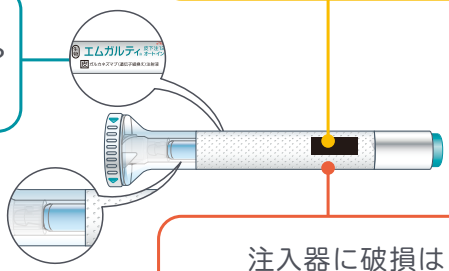


2. 注入器と薬液を確認します。

注入器や薬液に問題があった場合は、使用せずに医療従事者へ連絡してください。

エムガルティ皮下注120mg
オートインジェクターで間違いありませんか？
（他のペン型製剤でないことを確認）

ラベルに記載の
使用期限は過ぎていませんか？



注入器に破損は
ありませんか？

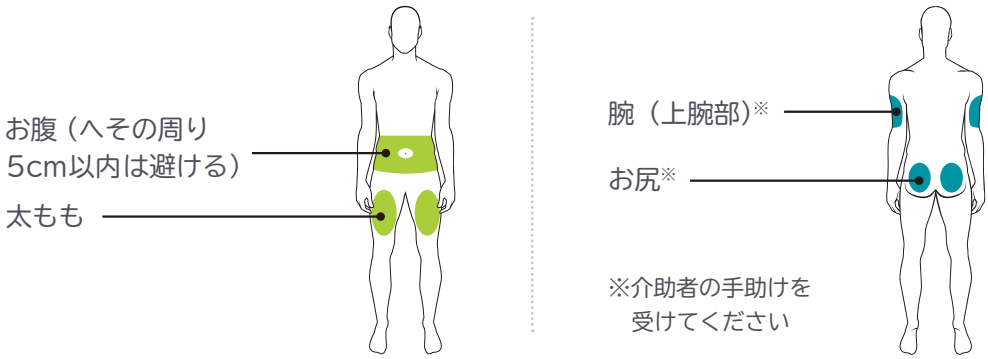
薬液の見え方

薬液は無色透明かわずかに
黄色がかっています。
・濁り、変色、異物混入はありませんか？
・凍結していませんか？

3. 注射前にせっけんで手を洗い、専用廃棄用キャップまたは廃棄用の容器（ふたができ、穴の開かない容器）も準備しておきます。

4. 注射部位を決め、消毒し、乾かしてください。

エムガルティを注射する部位
（注射部位は、医療従事者にご相談のうえ、適切な部位を選んでください。）

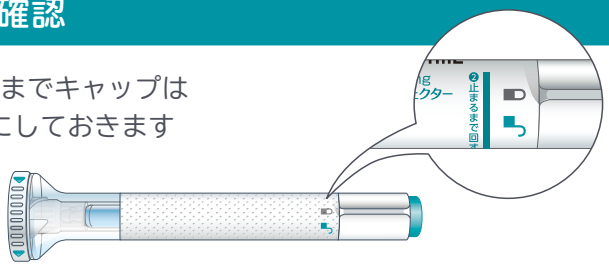


- 注射箇所は必ず毎回変更してください。
- 同じ部位に注射するのは問題ありませんが、注射箇所は前回から変えてください。
- 傷や発赤等のある部位には注射しないでください。

注射方法

使用前に確認

注射する直前までキャップは
つけたままにしておきます

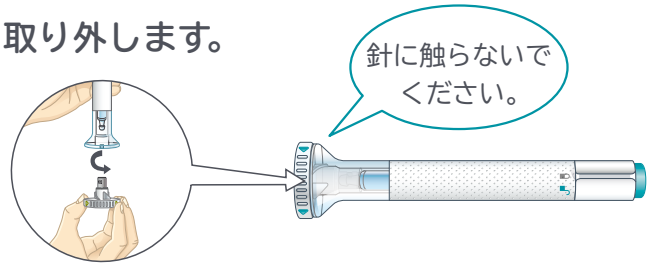


ロックリングが
ロックの位置に
あることを確認します

1. 注射する直前に、キャップを取り外します。

キャップを回して外します

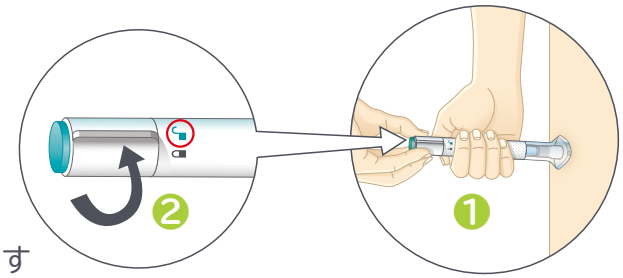
＊外したキャップを
元に戻さないでください
（針が破損することがあります）



2. 底面を皮膚にあて、ロックを解除します。

❶ 透明な底面を皮膚に
しっかりと密着させます

❷ ロックリングを
「ロック解除」の位置まで回します

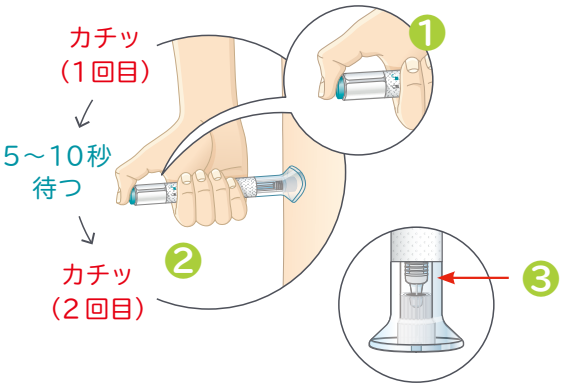


3. 注入ボタンを押し、底面を皮膚に密着させて5～10秒間待ちます。

❶ 青緑色の注入ボタンを押し切ると、
カチッという大きな音がします

❷ 最初の音から5～10秒後に
2回目のカチッという音がしたら、
注射完了の合図です

❸ 灰色のゴムピストンが
見えていれば注射完了です



● キャップは元に戻さないでください

保管と取扱い

冷蔵庫（2～8℃）に
保存してください。

室温（30℃以下）で7日間
保存することができます。

凍らせないで
ください。

使用するまで
遮光保存してください。

激しく
振らないでください。

上記の保存条件が守れなかった場合は、
廃棄してください。

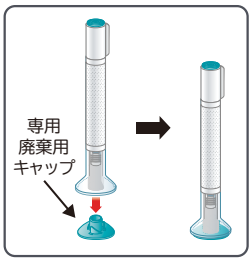
注入器の一部にガラスが使われていますので、
丁寧に扱ってください。
硬い床や地面に落とした場合は使用せず、
新しい注入器を使用してください。

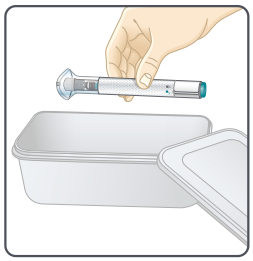
子供の手の届かないところに保管してください。

廃棄方法

使用済みの注入器は、医療従事者の指示に従って廃棄してください。

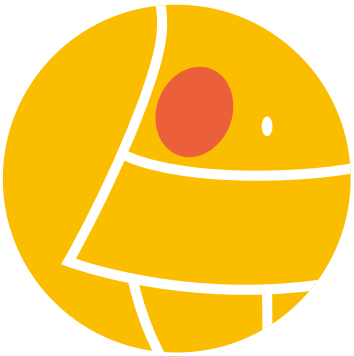
- 注入器は安全性を考えて、使用後に針が自動的に本体内に戻るように設計されていますが、廃棄の際は、針が露出していないことを確認してください。
- 針に触れる可能性がありますので、使用後に底面から本体の中へ指が入らないようご注意ください。
- 最初に外したキャップを元に戻さないでください。針が破損することがあります。
- 使用済みの注入器は、専用廃棄用キャップをはめ込む、または専用廃棄用キャップがない場合は、ふたのできる、穴の開かない容器に入れてください。





エムガルティの副作用

よくみられる副作用



- よくみられる副作用は注射部位反応（痛み、発赤、かゆみ、内出血、腫れなど）です。
- 注射部位反応は、多くの場合、注射した日に出現し、数日以内に消失します。
- その他の副作用として、皮膚のかゆみ、じんま疹、発疹などが報告されています。

重篤な過敏症について

まれな副作用として、重篤な過敏症が起こることがあります。特に次のような症状があらわれた場合は、次の受診日を待たずに医師・薬剤師に連絡して、すみやかに医療機関を受診するようお願いします。

重篤な過敏症反応は、本剤投与後数日たってからあらわれることもありますので、ご注意ください。

- 皮膚に今までとは違う発疹、かゆみが出た。
- 息苦しい（呼吸困難もしくはのどが締め付けられるような感じ）。動悸（どうき）がする。
- 顔、まぶた、唇・舌やのどが腫れた。声がでにくい。
- 寒気がしたり、発熱がある。汗をかく。
- ふらついたり、意識がもうろうとする。

その他、気になる症状があらわれた場合には、医師、薬剤師、または看護師に連絡してください。

こんなときは…

もし注射を忘れてしまったら…

気がついたときに1回分を注射し、
その日から1ヵ月後を次の注射日としてください。
わからないことがあれば、主治医に相談しましょう。

もし本剤についてご質問等があれば…
主治医にご相談いただくか、以下までお問い合わせください。

日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
（一般の方・患者様向け）
0120-245-970/078-242-3499※1
受付時間　月曜日～金曜日　8:45～17:30※2

第一三共株式会社　製品情報センター
（一般の方・患者様向け）
0120-693-132/03-6740-9152※1
受付時間　月曜日～金曜日　9:00～17:30※2

※1 フリーダイヤルでの接続が出来ない場合、このお電話番号にお掛けください。
尚、通話料はお客様負担となります。
※2 祝祭日及び当社休日を除きます。

最新の取扱説明書は、下記の患者さん向けウェブサイトからダウンロードできます。

エムガルティをご使用される患者さん向けウェブサイト

https://www.emgality-patient.jp

よくある質問

Q. 薬液の中に気泡があった場合はどうしたらいいですか？

A. 本剤は皮下に注射されます。皮下注射では、薬液の中に気泡があっても問題ありません。

Q. キャップを外した後、針先から薬液がもれていた場合はどうしたらいいですか？

A. 針先にしずくがついている程度であれば問題ありません。

Q. キャップを外さずにロックを解除して、青緑色の注入ボタンを押してしまったら、どうしたらいいですか？

A. 針がとびだし、薬液がもれ出すのでキャップを外さないでください。新しい注入器を使用してください。

Q. 注射が完了するまで注入ボタンを押し続ける必要はありますか？

A. 必ずしも注入ボタンを押し続ける必要はありませんが、注入ボタンに指を添えることで注入器をしっかりと皮膚に密着させることができます。

Q. 注射後に針が戻らなくなったらどうしたらいいですか？

A. 針に触ったり、キャップを元に戻したりしないでください。ふたのできる、穴の開かない容器に注入器を入れて、第一三共株式会社 製品情報センターまでお問い合わせください。

Q. 注射後に少量の薬液が皮膚上にもれていたり出血したりしている場合は、どうしたらいいですか？

A. 問題ありません。カット綿またはガーゼを注射部位にあててください。注射部位をもまないでください。

Q. 注射をしている間、大きなカチッという音が2回と小さなカチッという音が1回聞こえました。正常に注射できたのでしょうか？

A. 2回目の大きなカチッという音がする直前に小さなカチッという音が聞こえることがありますが、注入器は正常に作動しています。2回目の大きなカチッという音がするまで注入器を皮膚から離さないでください。

Q. 注射が完了したことを確認するにはどうしたらいいですか？

A. 青緑色の注入ボタンを押した後、2回カチッという大きな音がします。2回目の音が注射完了の合図です。また、注入器の透明な部分の上部に灰色のゴムピストンが見えていれば、正しく注射できています。

EMG-N007（R1）
EMG1P01701
2026年2月改訂